

平成21年度は1,333名が合格 専門技術者講習・試験

自家発専門技術者912名、可搬形専門技術者421名

内発協が実施した「平成21年度専門技術者講習・試験」で新たに資格を取得した合格者がこの程決定した。合格者数は、自家用発電設備専門技術者が912名、可搬形発電設備専門技術者が421名の合わせて1,333名となり、前年度に比べ111名の減少となった。去る11月26日に開催した「自家用発電設備専門技術者審査委員会」が試験結果について審議し、合否判定を行い、その判定結果を内発協会長に上程し、それを受けて会長が承認したもの。

平成21年度の講習・試験は、9月上旬から11月上旬にかけて、自家用発電設備専門技術者については全国10会場で12回、可搬形発電設備専門技術者については同9会場9回実施した。

今年度の特徴としては、漸減傾向にあった自家用発電設備専門技術者では、受験申請者数が前年度比13%（119名）の増加となったことから、合格者数はここ5年間では最多の912名となった。一方、可搬形発電設備専門技術者では、平成17年の移動用電気工作物の通達改正の影響により増加した受験申請者数が、通達の影響が一段落したと思われることから減少に転じ、合格者数は前年度比35%の減少となり、421名であった。

科目別40名、業務区分追加30名が合格

新規受験者の講習・試験と合わせて実施された科目別受験では40名、業務区分追加受験では30名がそれぞれ合格した。

科目別受験は、一部科目は合格したが他の科目に不合格のものがあったため、前年度合格には至らなかった者が、翌年度その不合格の科目を再度受ける受験方式である。

業務区分追加受験は、既に専門技術者の資格を有している者が、業務区分に新たな区分を追加するために受ける受験方式である。

自家発専門技術者受験申請者数の会場別内訳

自家発電設備専門技術者受験申請者数の会場別内訳は、平成20、21年度とも東京会場が圧倒的に多く全体の40%を占め、大阪会場、名古屋会場の順になっている。[【5ページの円グラフを参照】](#)

平成21年度の受験申請者数は、昨年度に比べ119名増加の1,036名で、会場別では名古屋、広島、福岡以外の7会場で申請者数が増加した。特に増加分の90%近くが東京、大阪の両会場によるものであった。

自家発専門技術者受験申請者の業種別内訳

自家用発電設備専門技術者受験申請者の業種別内訳として、平成20、21年度とも電気工事業、保守・修理業及び製造業に従事する者が全体の70%を占めた。

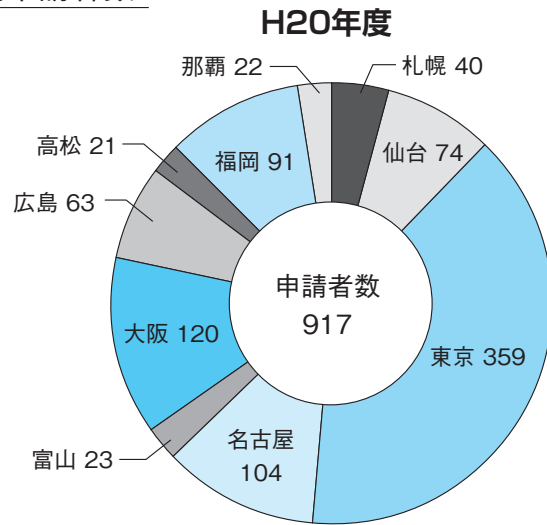
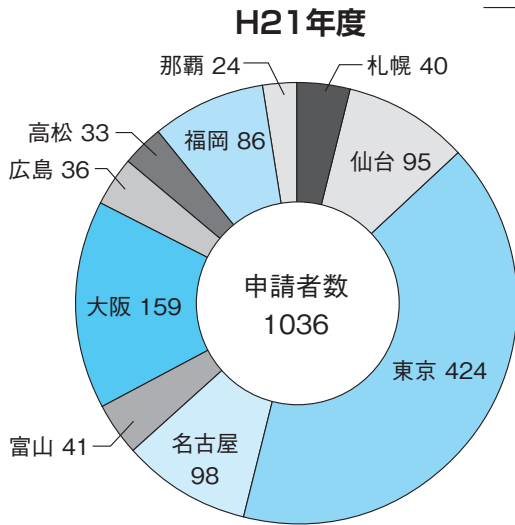
特に電気工事業と保守・修理業に従事する者は、平成21年度は20年度に比べ、全体の増加数を超える125名の増加となった。これに対して製造業に従事する者は、全体の15%（138名）から10%（101名）に低下した。

自家発専門技術者受験申請者の年齢別内訳

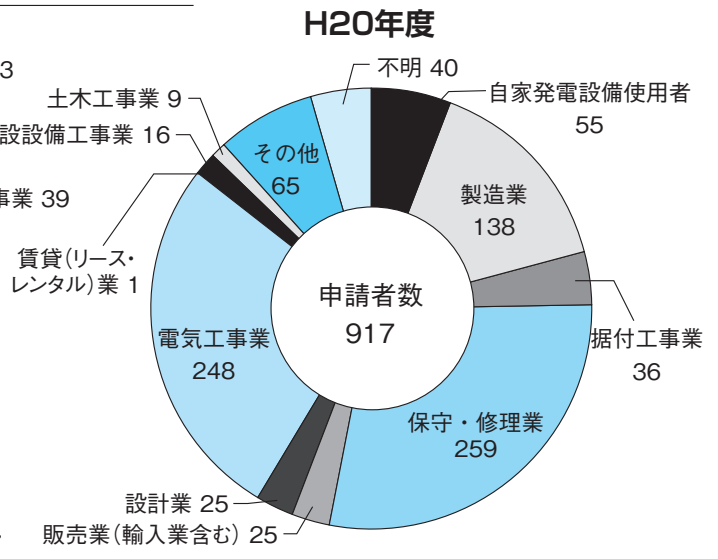
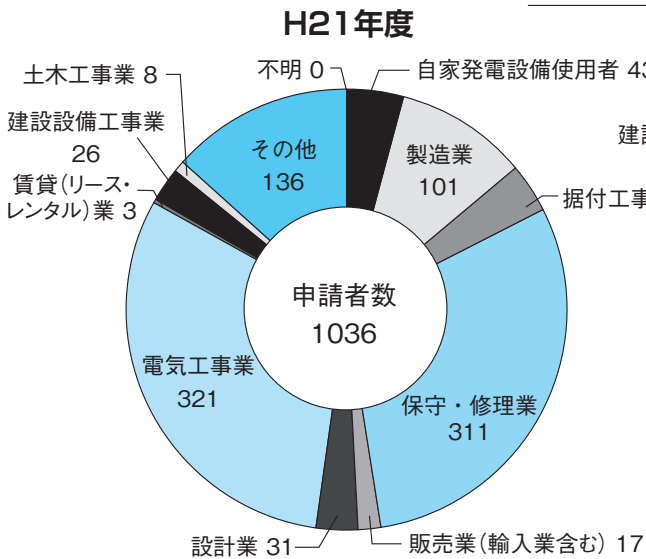
自家用発電設備専門技術者受験申請者の年齢別内訳として、平成20、21年度とも30代の者が一番多く全体の40%弱を占め、40代、20代、50代の順になっている。平成21年度は20年度に対して若干ではあるが、20代の割合が増え、反対に50代の割合が減った。

自家用発電設備専門技術者受験申請状況(新規受験者)

1. 会場別申請者数



2. 業種別申請者数



3. 年齢別(4月申請時)申請者数

